

(抄録表紙)

(乙)

## 学位論文抄録

尋常性乾癬における carcinoembryonic antigen (CEA) および  
CEA-related cell adhesion molecule 6 (CEACAM6) の発現の検討  
(The expression of CEA and CEACAM6 in psoriasis vulgaris)

藤澤明彦

指導教員

尹浩信 教授

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻皮膚病態治療再建学

## 学位論文抄録

[ 目的 ] carcinoembryonic antigen (CEA)については現在皮膚科領域において汗管や汗管由来腫瘍、パジェット病での発現は周知の事実である。また毛包、脂腺、爪など他の皮膚付属器、種々の炎症性および腫瘍性皮膚疾患におけるCEAの発現が知られるようになってきたがその発現抗原の詳細や発現の意義についての研究はほとんどなされていない。CEAの機能について細胞接着作用、好中球の活性化、T細胞活性化の亢進や抑制、粘膜における感染防御、胎児期組織形成の調整などの報告がある。尋常性乾癬においてCEAの発現動態を解析することでT細胞や好中球の挙動やどのような役割を演じているのかを解析する足がかりとすることを目的とした。

[ 方法 ] 尋常性乾癬の診断となった37例(28例のホルマリン標本と9例の凍結標本)の皮膚組織標本を用い、細胞分化や増殖マーカーであるinvolucrin、PCNA、Ki-67、CK16の発現とCEAの発現について免疫プロット法と免疫組織染色法を用いて評価した。

[ 結果 ] 免疫プロット法、免疫組織染色法により、CEAとCEACAM6は乾癬病変部で過剰発現していることを確認した。病変辺縁の正常皮膚にみえる部位には発現を認めず、病変部の表皮上層にある角化細胞の細胞膜および細胞質のみ発現を認めた。involucrin、PCNA、Ki-67、CK16も乾癬病変部に過剰発現しておりCEACAMファミリーの発現はinvolucrinより上層の表皮角化細胞で認めた。

[ 考察 ] 免疫プロット法におけるCEAは幅の広いバンドとして検出されたが断片化、グリコシル化などの翻訳後修飾、リガンドとの接着などの影響が考えられた。CEACAM6は尋常性乾癬病変部と対比させるための正常組織でも弱いながらバンドを認めたが、正常の汗管や脂腺のCEACAMファミリーの発現が知られているため、それらのコンタミネーションと考えられた。免疫組織染色法において凍結組織標本のCEA同定について、EDTAに浸し電子レンジで処理することによりホルマリン固定標本と同様の染色結果を得ることができ標本の取り扱いや長期保存の観点からより多くの検体での評価が可能となった。過去の文献と本研究の結果から表皮角化細胞におけるCEACAMファミリー発現は、増殖活性の亢進している表皮角化細胞に認める傾向がある。さらにinvolucrinとCEACAMファミリーの免疫組織二重染色法によりinvolucrin発現に遅れてCEACAMファミリーの発現があることから増殖活性の亢進した表皮角化細胞における分化との関連がある可能性が考えられた。

[ 結語 ] 尋常性乾癬病変部表皮角化細胞においてCEACAMファミリーの発現を認めた。免疫組織学的検討や過去の報告から、増殖活性が亢進した表皮角化細胞における分化と関連している可能性が考えられた。